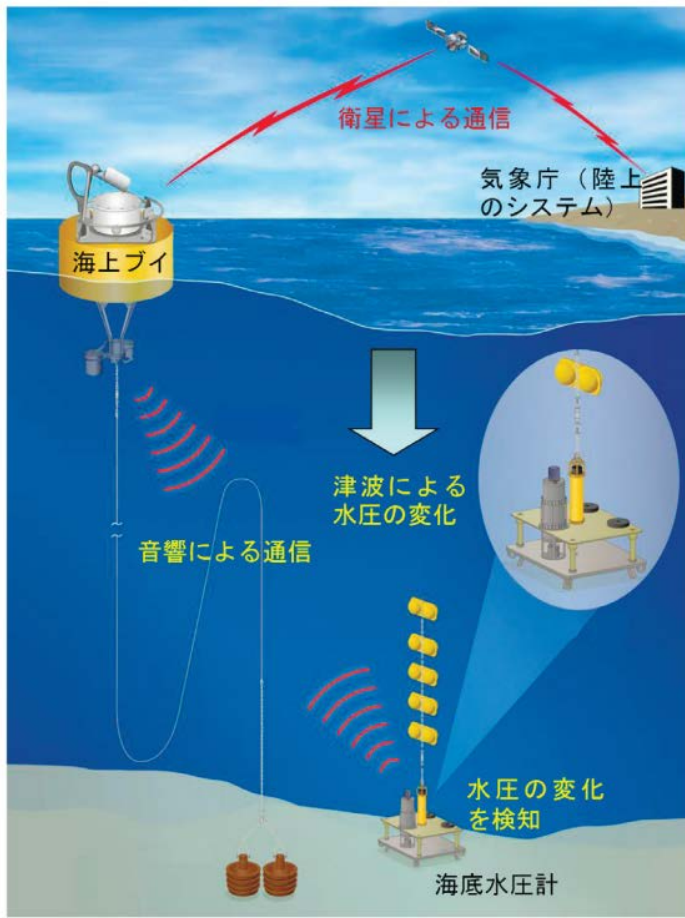
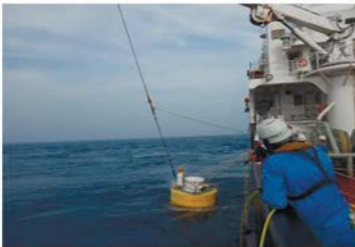


ブイ式海底津波計の概要



- ①津波による水圧の変化を海底水圧計が検知
- ②観測された津波データを音響通信で海上ブイに送信
- ③衛星通信により津波データを気象庁に送信

海上ブイの設置



海上ブイ投入



係留索繰り出し



アンカー投入

海底水圧計の設置



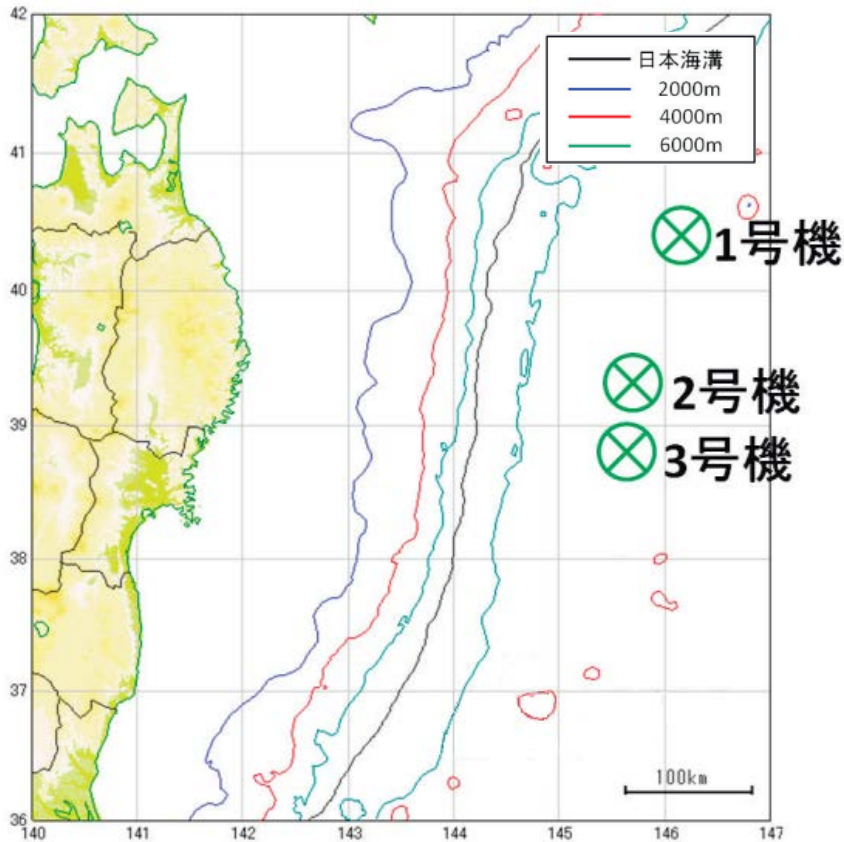
フロートの投入



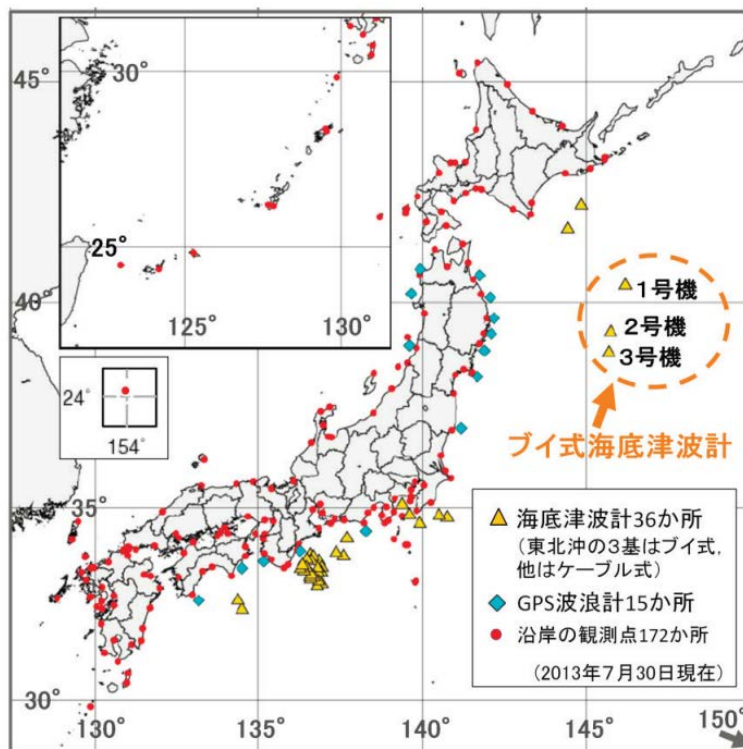
海底水圧計の投入

ブイ式海底津波計の設置場所

➤ ブイ式海底津波計の設置場所



➤ 気象庁が津波監視に用いている津波観測点



ブイ式海底津波計による津波早期検地の効果

- ブイ式海底津波計の設置により、日本海溝軸付近で発生する津波を、地震発生後10分程度で捉えることが可能となる(図1)
- 同領域内で発生する津波を、既存の観測網に比べて、場所によっては10分以上早く捉えることが可能となる(図2)

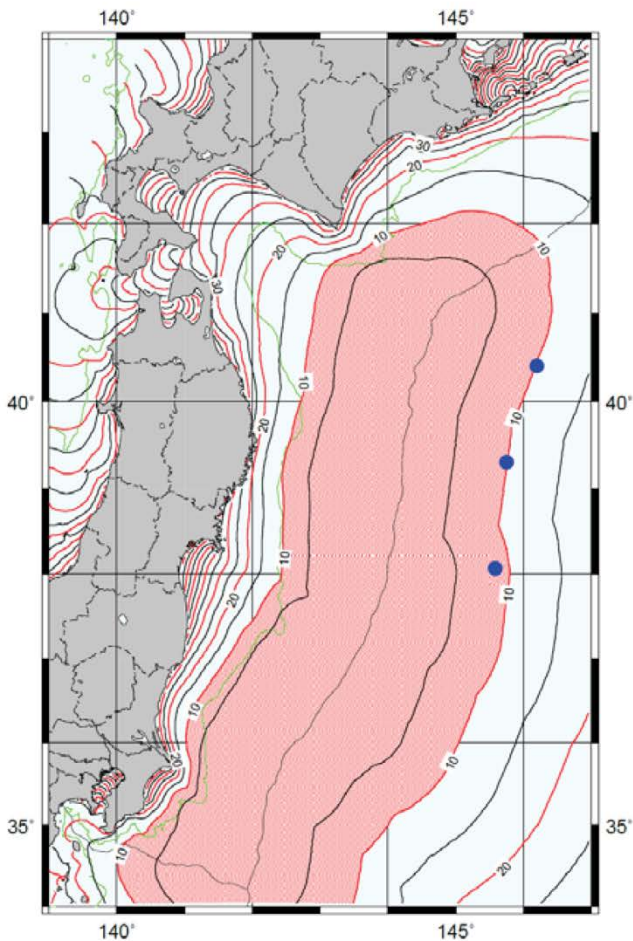


図1 海溝軸付近で想定される津波発生源から津波が伝搬する時間。

等値線は5分間隔。赤く塗った領域は、想定される津波発生源から津波が10分で伝搬する範囲。

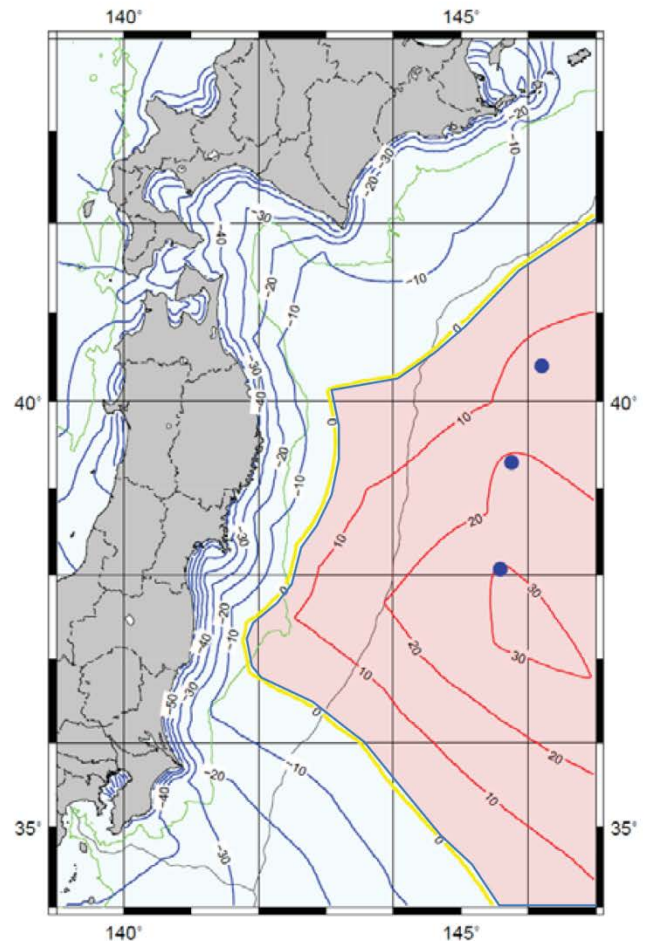


図2 ブイ式海底津波計と既存の観測網との津波検知までの時間差。

等値線は10分間隔。赤く塗った領域は、ブイ式海底津波計で既存の観測網よりも早く検知できる津波の発生範囲。